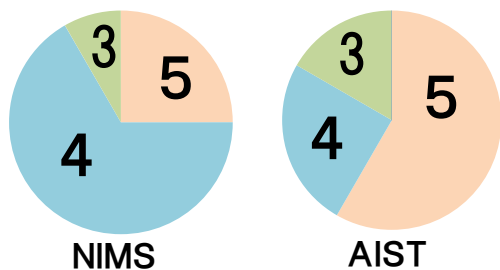


物質・材料研究機構、産業技術総合研究所見学

見学の評価



見学内容

16日:JAXA見学 きぼう管制室他

17日:NIMS

クリープデータプロジェクト
ナノテク融合ステーション
制振ダンパー材料
電子顕微鏡構造材料
蓄電池プラットフォーム
超高感度センサー
スマートバイオマテリアル

AIST

ミニマルファブ

18日:AIST

有機ナノカプセル材料
光機能材料
紫外光THz変調
グループ長との懇談

日時:2月16日~18日

参加:履修生11名(M1:3名、M2:4名、D1:3名、D2:1名)

NIMS
感想

- ・官の研究機関を訪問するのは初めてのことであったが、研究内容、研究環境、研究レベル、NIMSのビジョン等を鑑みると、将来、研究者として働く場所としてはかなり魅力的だと感じた。
- ・国立研究機関の実験室への見学は参考になった。大学の実験室と違って、プロな印象が残った。
- ・資金力が桁違いで、研究の自由度が広い印象が強く、期待する研究環境として非常に高い位置にあると感じた。縁があれば、卒業後にNIMSで武者修行をするのも面白そうだと思う。
- ・電池の性能向上やにおい検知の研究など専門性に限らず、その方向性の異なる研究内容に触れることができたのは有意義であった。
- ・大学の研究室では聞けないことが多かったので、産業化を目指した研究がどのようなものなのか実感できた。
- ・構造や合成法が少し特殊な機能性分子が応用されているのを直に目の当たりにできてとても良い経験になった。

AIST
感想

- ・基礎研究ばかりなのかと思っていたが、基礎から応用までこれほど手広く行える研究機関があることを初めて知った。シーズ重視の取り組みで世界を変えられる実感が持て、非常に魅力的に感じた。
- ・常に大きな指針を持って研究に取り組めるわけではなく、それまでの自分の研究からのボトムアップ的な偶然ともいえる思い付きや気づきから産業へと結びつく大きな研究へとつながっていく実情には、研究を行うことの難しさが伺えた
- ・大学と産総研の研究に関する姿勢の乖離の話は改めて聞くと難しい問題に思えた。学理と産業の橋渡しの研究の重要性を感じるとともに、むしろお互いの研究の方向性の違いを認めるとともに相互のフィードバックを経て、有用な研究成果を得ていくことが大切ではないかと思った。
- ・自分たちに持っていない感性を持っている事を痛感した。しかし、そのアイデアは最先端の研究の経験を積み、さらに世の中の問題点を把握することで生まれてくるものだと気づかせてくれた見学であった。
- ・産総研は研究成果の'橋渡し'に重きを置いているので、社会のニーズを先読みした基礎研究ができて、産学官の連携を図れるリーダーシップのある研究者(カデット生の理想像?)が求められているように感じた。